列強の進出とアジアの改革（清・オスマン帝国・日本）

列強の進出に対して、アジアの国々はどんな改革を進め、何が改革を左右したか

共通の背景：工業力と軍事力をもつ列強が進出し、アジアの国々は不平等な条約などの圧力を受けた

清	オスマン帝国	日本
1 外からの圧力		
アヘン戦争（1840〜42年）の後、開港と不平等な条約を受け入れる	ヨーロッパの国々の進出と、帝国の政治への干渉が強まる	ペリーの来航（1853年）の後に開国し、不平等な条約を結ぶ（1858年）
2 改革の動き（年の順）		
1860年代から　洋務運動 外国の技術を取り入れ、兵器工場や造船所をつくる **1898年　変法** 政治や教育の仕組みを改めようとするが、約100日で止められる **1908年　憲法大綱** 憲法をつくり、立憲政治に移る準備を進める	**1839年から　タンジマート** 法の前の平等を示し、行政や軍の仕組みを改める **1876年　憲法を定める** 翌年に議会を開くが、1878年に憲法が停止される **1908年　憲法の復活** 憲法にもとづく政治が再び始まる	**1868年　明治維新** 天皇を中心とする新しい政府ができる **1872〜73年　学制・徴兵令・地租改正** 学校・軍・税の仕組みを全国で改める **1889年　大日本帝国憲法** 憲法を定め、翌年に帝国議会を開く
3 改革をとりまく国内・国外の状況		
国内：各地で大きな反乱が起き、朝廷の中には改革に反対する勢力もある 国外：日清戦争の後、列強が勢力を広げる	国内：多くの民族・宗教の人々が暮らす広い帝国で、独立を求める動きもある 国外：ロシアとの戦争（1877〜78年）など	国内：新しい政府が全国を直接治める（1871年 廃藩置県）。反乱も起きる 国外：不平等な条約の改正をめざす

考えよう　改革を進めた力と、妨げた力は何だったか。国内の状況と国際関係の両方から比べよう。

※ 3つの国の並び順と枠の大きさは、優劣を表さない。改革と出来事は主なものだけを示す。